なし管理情報 No.5

令和７年６月１２日
下野方梨組合
魚津市農業協同組合
富山県新川農林振興センター

１　「幸水」の生育状況

・着果量：**平年並**

・肥大：満開50日後(6/6)の横径は、33.2mmと**前年、平年に比べ大きい。**(前年比108%、平年比111%)。※R7年度から調査樹を１樹変更

２　病害虫防除

＜発生状況・トラップへの誘殺状況＞

・黒星病：春型病斑の発生量は、**前年、平年並で、り病葉、り病果が散見される。**（次回は6/13に調査を行う。）

・木材腐朽菌：老木を中心に**萎縮症状がやや多い。**

・モモチョッキリゾウムシ：一部園地で局所的に発生。

・ニセナシサビダニ：前年に比べ少ないが、一部園地で少発生。

・ハダニ類：未確認。

・ナシヒメシンクイ：フェロモントラップへの誘殺は、平年よりやや多い。

・チャバネアオカメムシ：フェロモントラップへの誘殺は、**平年並～やや多い**。日中の園地で成虫や卵が確認されている。

＜ポイント＞

・**薬剤散布**：**散布予定日に降雨が予想される場合は、前倒しで実施**し、散布間隔がひらき**薬剤の効果が切れる期間を作らない**。また、薬剤の散布ムラが発生しないよう、**往復走行や補正散布を行う**。

・**黒星病**：**「幸水」は６月下旬頃から果実が感染しやすい肥大最盛期を迎える。収穫期の果実病斑を減らすため、梅雨明けまで、春型病斑を摘み取り、園地外で処分**するとともに、**多発時は、13回目のオーソサイド水和剤80をミギワ20フロアブル（4,000倍、収穫前日まで、３回以内）に変更**する。

・**木材腐朽菌**：樹にきのこ（子実体）の発生を確認した場合は、早めにきのこを除去して園地外で処分し、きのこからの胞子の飛散を防ぐとともに、腐朽部分は、削り取り、保護殺菌剤を塗布する。

・**カメムシ類**：日中の園地でカメムシ類を複数個体確認した場合は、**12回目のノーモルト乳剤をテッパン液剤（2,000倍、収穫前日まで、２回以内）に変更**する。

・**ハダニ類**：園地内をよく観察し、発生を確認次第、**マイトコーネフロアブル（1,000倍、収穫前日まで、１回以内）を特別散布**する。

＜薬剤防除＞

回数	散布時期の目安	散布薬剤と希釈倍率	10a当たり散布量	対象病害虫	実施日（自己記入）
10	６/21～23	フロンサイドSC 2,000倍 ダニサラバフロアブル 2,000倍	350ℓ	黒星病、黒斑病、輪紋病 ﾊﾀﾞﾆ類	
11	７/１～３	アミスター10フロアブル 1,000倍 スミチオン水和剤40 1,000倍 ※収穫21日前まで	350ℓ	黒星病、黒斑病、輪紋病 うどんこ病、炭そ病 ﾊﾏｷﾑｼ類、ｼﾝｸｲﾑｼ類、ｶﾒﾑｼ類	
12※	７/11～13	オキシラン水和剤 500倍 ★ノーモルト乳剤 2,000倍 （カメムシ類多発時） テッパン液剤 2,000倍 ★ノーモルト乳剤とテッパン液剤は、どちらかの剤を散布	350ℓ	黒星病、黒斑病、輪紋病 ｼﾝｸｲﾑｼ類、ﾅｼﾎｿｶﾞ、ﾅｼﾁﾋﾞｶﾞ ｶﾒﾑｼ類、ｼﾝｸｲﾑｼ類、ﾊﾏｷﾑｼ類	
13	７/21～23	★オーソサイド水和剤80 1,000倍 ※収穫3日前まで （黒星病多発時） ミギワ20フロアブル 4,000倍 ※収穫前日まで スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 ※収穫前日まで ★オーソサイド水和剤 80 とミギワ 20 フロアブルは、どちらかの剤を散布	350ℓ	黒星病、赤星病、輪紋病 黒星病 ｼﾝｸｲﾑｼ類、ｶﾒﾑｼ類、ｹﾑｼ類、ｱﾌﾞﾗﾑｼ類、ｺﾅｶｲｶﾞﾗﾑｼ類	

※防除時期の目安は、９回目防除を6/11～13とした場合

３．今後の管理

＜ポイント＞

- **着果管理**：<u>着果量が多く仕上げ摘果が遅れている園</u>では、なるべく早めに仕上げ摘果を実施する（仕上げ摘果時の着果量のめやすは管理情報NO.4参照）。
- **新梢管理**：<u>予備枝や陰芽から発生した新梢は、７月（新梢伸長停止後）に誘引</u>し、花芽の着生を図る。また、<u>新梢の伸長が旺盛な樹</u>は、<u>芽かきや夏季剪定</u>を行い、受光環境、薬剤到達性を良好に保つ。
- **土壌水分管理（排水）**：排水不良による黄変落葉や裂果を防ぐため、明きょ等の排水路を点検し、排水口につながるように手直しをする。
- **土壌水分管理（かん水）**：**今後高温が予想され、無降雨日が５日以上続いた場合は積極的にかん水を実施する。**特に高温・乾燥が続くような場合は根域まで浸透するよう十分に行う。また、苗木は乾燥ストレスに弱いため、マルチを設置し、乾燥を防ぐ。
- **収穫準備**：今年の<u>「幸水」の収穫開始は、８月14日頃と予想</u>され、前年、平年より遅いと見込まれる。今後、寡日照・多雨となった場合は、果肉が先熟し、収穫期が早まる可能性もある。計画的に収穫、販売の準備を進める。

＜問い合わせ先＞新川農林振興センター 宮本 52－5192